

2025(令和7)年度 部局マニフェスト

～私たちの組織使命と目標～

部局名	地域連携部
役職	部長
氏名	藪中 英行
連絡先	0595-22-9639



業績目標の標語(指導者評価)
 目標としていた達成水準を上回る成果を出した(100%超)
 目標としていた達成水準に到達した(100%)
 わずかに目標の達成水準に達しなかった(90%以上100%未満)
 目標の達成水準には届かなかった(60%以上90%未満)
 目標の達成水準までは遠い結果となった(60%未満)
 目標達成のための取り組みが見られなかった

業績目標	表題	現状や課題	達成水準 (どこまでできれば達成したといえるか)
◎部局目標1 地域の活力を維持した魅力ある地域づくり	関連の施策・基本事業No: — 将来を見据えた住民自治のあり方の検討	<p>〈これまでの経緯〉 自治基本条例に基づく住民自治のしくみによりその推進を図ってきたが、昨年12月で20年が経過することとなった</p> <p>〈現状分析〉 人口減少・少子高齢化とともに住民自治を取り巻く様々な環境の変化により、地域の担い手不足や住民同士の繋がりの薄れが進行し、持続可能な住民自治のあり方の検討が求められている</p> <p>〈課題〉 上記現状に対し、全国的に抜本的解決がなされている先進事例はなく、将来のあり方をどのように検討していくか諮問機関における熟議が必要である</p>	<p>〈目標数値〉 (仮称)住民自治あり方検討委員会において、20年間の振り返りと目指す提案の提示</p> <p>〈達成された状態〉 20年間の振り返りと目指す提案がまとめられている</p> <p>〈手段・工程〉 ・付属機関の委員選定、委嘱 ・委員会の開催(5回程度を想定) ・20年間の検証結果まとめ ・目指す提案の検討協議 ・必要に応じ市民アンケートなどを実施</p>
◎部局目標2 地域の活力を維持した魅力ある地域づくり	関連の施策・基本事業No: — 課題解決に向けた地域への伴走支援とキラッと輝け！地域応援補助金の有効活用	<p>〈これまでの経緯〉 地域における課題解決や特色を活かしたまちづくり活動に繋げるため、住民自治協議会からの申請に基づき交付する「キラッと輝け！地域応援補助金」の財政支援制度を令和元年度から運用している</p> <p>〈現状分析〉 例年、当該補助金の活用率(交付団体数/39団体)は50%程度であり、毎年活用している住民自治協議会があるものの、これまで一度も活用がなされていない住民自治協議会が9団体となっている</p> <p>〈課題〉 地域支援は担当職員の様々なスキルが求められるほか、補助金の活用率の隔たりは、地域支援の濃淡や制度の周知の仕方、また団体毎の資力や自己資金の負担感等様々な要因によるものと考えられるため、地域支援にあたってはこれらの見極めが重要となる</p>	<p>〈目標数値〉 キラッと輝け！地域応援補助金のこれまでの活用実績が0または1件の団体(14団体)のうち2団体で新規の申請に繋げる</p> <p>〈達成された状態〉 新規で申請された2団体において、課題解決や特色を活かしたまちづくり活動のための事業が展開されている</p> <p>〈手段・工程〉 ・地域とのコミュニケーション強化 ・地域課題の共有 ・補助金活用の提案 ・事業設計のための伴走支援 ・申請にかかる支援など</p>

達成状況 (自己評価)	理由

◎部局目標3	関連の施策・基本事業No: —		
市民公益活動団体の活性化	市民公益活動団体への中間支援の充実	<p>〈これまでの経緯〉 H17.4月に市民公益活動団体や住民自治活動などを支援するための機関として「市民活動支援センター」が設置され、例規に規程する事業の実施や、H29.11月に策定した活動指針に基づき、様々な団体や活動の支援を行ってきた</p> <p>〈現状分析〉 R6.11月に実施した団体等へのアンケート結果では、8割近くの団体が市民活動支援センターの「現在の支援内容で満足している」という回答がある一方、利用が「年に1回程度」、「一度も利用したことがない」が約半数を占める結果となっている</p> <p>〈課題〉 市民活動支援センターの存在や活動・支援内容などを「知らなかった」という団体も一定数おり、更なる情報発信が求められている。また、センターの運営に関し、専門性、継続性、安定性などを確保していく必要がある</p>	<p>〈目標数値〉 市民活動支援センターの今後の方向性(支援体制を含む)をまとめあげる</p> <p>〈達成された状態〉 支援を充実させるための道標が示されている</p> <p>〈手段・工程〉 ・支援体制を充実させるための手法の洗い出し ・中間支援組織の先進地視察と導入可能性の検討</p>

--	--